



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2023年7月

販促・魅力発信

- ALPS処理水に関する風評を抑制・払拭することに加え、三陸・常磐地域の水産業等の本格的な復興や持続的な発展を後押しするため、経済産業省、復興庁、農林水産省にて、2022年12月20日に「**魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク**」を立ち上げ。
- ネットワークの取組の一つとして、2023年7月15日（土）から9月30日（土）を「**三陸・常磐ウィークス（第2弾）**」と称し、イベントの実施や、ネットワーク参加企業等による「**三陸・常磐もの**」の消費拡大を実施。

三陸・常磐ウィークスの取組事例

（第一弾（2月23日～3月24日）の様子）

- 「三陸・常磐ウィークス」においては、ネットワーク参加企業等での社食、弁当、キッチンカー等を通じて「三陸・常磐もの」の大幅な消費拡大を推進する。
- 事務局のサポートの下で、企業等の従業員による「三陸・常磐もの」の積極的な消費を後押し。
- 政府においても、「三陸・常磐もの」の弁当を積極的に消費。
- 豊洲で三陸常磐海産物を販売するブース出店やトークイベント等を実施。



▲社食で三陸・常磐ものを導入した企業の例



▲各省庁等における三陸・常磐もののお弁当注文 ▲代々木公園等でイベント開催



三陸・常磐もの
ネットワーク
SANRIKU JOBAN MONO NETWORK

- 三陸常磐エリアの豊潤な海の幸を多くの方に知っていただき、味わっていただくための施策として「**ごひいき！三陸常磐キャンペーン**」を**2022年10月1日より実施**。
- **2023年7月15日から22日**の期間、**豊洲**において、三陸常磐水産物の魅力を発信する**トークイベント**や**販売ブース出店**、**飲食店とのコラボキャンペーン**等を実施。さらに、**仲卸業者の方の御協力**を得て作成した**PR動画**の発信、**市場関係者を対象にした試食・交流会**も実施。

豊洲イベントの様子



▲トークイベントの様子



▲販売ブースの出店



▲飲食店とのコラボキャンペーン



▲市場関係者向け試食・交流会



▲PR動画

動画はこちらから



- 宮城県にて漁業者団体及び県庁と連携し、**小中学生を対象に県産水産物を使った親子料理教室を開催**。経済産業省も開催を支援。
- 調理・試食を通じて宮城県産の水産物の魅力を伝えるとともに、保護者は「魚の栄養と健康」について、子どもは「耳石」について学ぶ機会を提供し、**若年層に水産物を身近に感じていただく**。
- 第1回目となる2023年7月15日には8組の親子が参加し、ホヤの吸い物、銀鮭のポシェマヨバタソース、銀鮭とわかめの混ぜご飯をつくって味わった。
- 2024年2月まで月に2回のペースで、「お子様も美味しく食べられる」をテーマに、ご家庭でも手軽に実践できるレシピをお子様と一緒に楽しめる料理教室として開催する予定。

「親子で参加♪宮城の海を味わう！料理教室」の様様



調理風景

子ども向けイベント

- **トレンド・おでかけ情報サイト「ウォーカープラス」において、茨城県の沿岸地域等の魅力を発信。**
- **茨城県で楽しめるグルメやレジャー等**（海鮮や水族館、海釣り等）を**盛り込んだ旅行プラン**（1泊2日）を紹介。

ウォーカープラスでの発信



いよいよ始まる2023年の夏休み。今年は久しぶりに、夏祭りや花火大会が概ねコロナ禍前と同じように開催される。日常の風景が戻ってきた様子を見て、今年の夏は思いっきり楽しみたい！と考えている人も多いはず。

旅行の計画がこれからなら、手軽に車で行ける東京近郊の県へ足を運んでみるのはいかがだろうか？今回は、都心からのアクセスが良く、見どころ満載な茨城県での1泊2日旅行プランを提案。夏を満喫できる海沿いエリアを中心に、グルメやレジャーを編集部スタッフが全力で体験してきた！



茨城の魅力をウォーカープラス編集部が解説！夏のおでかけに最適なスポットを徹底紹介

実際のページ
はこちら



- 7月3日～7日の5日間、**栃木県を中心に店舗展開しているフードオアシス オータニにて、福島県の水産加工品の販売会である「常磐大漁市」を開催した。**（18店舗で開催）
- 本イベントでは、**福島県の水産加工業者5社、9商品を販売した。**また、開催初日の3日には平松店（宇都宮市）にて試食を実施し、試食いただいた方よりアンケートを回収。
- 引き続き、こうした支援を通じて福島県産品の販路拡大を進める。

常磐大漁市 フードオアシス オータニ

- 2023年7月3日(月)にフードオアシス オータニ平松店にてポイルヤナギダコの試食を実施した。
- 味については「美味しい」「やわらかい」「味がしっかりする」という声を多く集め、価格については「品質の割に安い」というご意見をいただいた。



- 7月22日～8月31日、**福島県相馬市の浜の駅松川浦にて、福島県の水産加工品の販売会である「常磐大漁市」を開催中。**
- 本イベントでは、**福島県の水産加工業者9社、29商品を販売**している。また、開催初日の7月22日には、官民合同チームにて商品開発の支援を実施した、岩下商店の「松川浦産アオサ入り お手軽ちぎり揚げ」の試食を実施した。

常磐大漁市 浜の駅松川浦

- 企画名：「常磐大漁市」
- 日時：2023年7月22日(土)～8月31日(木)
- 場所：浜の駅 松川浦（福島県相馬市尾浜字追川196）
- イベント詳細：<https://fukushima-challenge.go.jp/event/jobantairyochi2023-2/>

【主な出品事業者（主な販売商品）】

- ・岩下商店（松川浦産アオサ入りお手軽ちぎり揚げ）
- ・海幸（赤魚開き）
- ・カネセン水産（蛸とおおさ海苔の海鮮ぶっかけ丼）
- ・佐藤水産（海苔の佃煮、しらす上乾干）
- ・センシン食品（ほっき飯の素）
- ・マルショウ櫻井（メヒカリ干し）
- ・マルリフーズ（各種あおさ商品）
- ・海神（しまほっけ開き）
- ・上野台豊商店（さんまポーポー焼き）



機構職員による試食会の様子



- 8月1日～8月8日の8日間、**仙台駅の2階 ストンドグラス前催事場（在来線中央改札前）**で開催される「**東北物産展**」に、**福島県の水産加工品の販売会である「常磐大漁市」**を出店する。
- 本イベントでは、常磐ものの水産加工品を宮城県を中心とした消費者に味わってもらい、販路拡大を目指す。**福島県の水産加工業者10社、25商品以上を販売予定。また、8月5・6日には試食を実施**予定。

常磐大漁市 東北物産展

- 企画名：「常磐大漁市」
- 日時：2023年8月1日(火)～8月8日(火)
10:00～20:00(最終日のみ10:00～19:00)
- 場所：JR仙台駅2階ストンドグラス前催事場
(在来線中央改札前)
- イベント詳細：<https://fukushima-challenge.go.jp/event/jobantairyochi2023-3/>

【主な出品事業者（主な販売商品）】

- ・岩下商店（松川浦産アオサ入りお手軽ちぎり揚げ）
- ・カネセン水産（味付けタコ、タコ飯の素）
- ・かねまん本舗（創作かまぼこ）
- ・佐藤水産（海苔の佃煮）
- ・丸由水産（さんまさ干し、サンマ梅海干し）
- ・丸克水産（イカー一夜干し）
- ・マルリフーズ（松川浦かけるあおさ、あおさの佃煮）
- ・福島県漁業協同組合連合会（かつお浅炊きシリーズ）

【試食実施について】

- 試食日程：2023年8月5日(土)、6日(日)
13:00～、14:00～、15:00～、16:00～
(各回先着100名様分、無くなり次第終了)
- 試食商品：松川浦かけるあおさ（マルリフーズ）



試食提供例

※予告なく事業者または販売商品を変更する場合がございます。
※試食内容、時間等については変更になる場合がございます。



仙台駅（販売イメージ）

- 2,000万人をこえるSNSフォロワー数を持ち、**中南米等に大きな影響力を持つ「食・グルメ」のインフルエンサー（メキシコ人）を5月末～6月頭に日本に招へいし、岩手・宮城・福島・茨城を訪問**。石巻、大船渡等の漁港や米、醤油、日本酒・ウイスキーの生産現場等を視察し、土地・気候に合わせた食品が作られていることや生産工程のこだわり、クオリティー等を確認した。
- 当該のインフルエンサーの東北・三陸・常磐地域の**訪問動画が、6月末～7月にかけて、順次YouTube上で公開（計3本）された。全動画の合計再生回数が500万回を超える**（7月下旬時点）など、メキシコを中心としたスペイン語圏でも多くのフォロワーに好評価を受けた。

中南米 超大型「食グルメ」インフルエンサーの東北・三陸・常磐地域 訪問動画（抜粋）

第1回動画（Lo Mejor del Mar en Japón
「日本で最高の海産物」）

<https://youtu.be/Om6DbtiiFdU>



ギネス認定された魚市場を持つ宮城県の石巻漁港

第2回動画（Sin Arroz No Hay Japón
「コメなくして日本なし」）

<https://youtu.be/tvfxgY1X8>



会津酒造視察、喜多方での田植え体験

第3回動画（Todo lo rico de Japón
「日本の美食のすべて」）

<https://youtu.be/b3s6ZkmC8ks>



松島、石巻で日本食を満喫

- 7月19日、メキシコ（メキシコシティ市内）において、「**東北・三陸・常磐もの水産品および酒類**」の**試食・試飲会を開催**。
日本からは東北6県+茨城の計7県から、
・水産品：17社32商品（牡蠣、ホタテ、ホヤ、アワビ、さば、サーモン加工品、海藻加工品など）
・酒類：17蔵元40銘柄（日本酒を中心に、梅酒、柚酒、イチゴ酒など）
をメキシコに直送し、**メキシコのインポーター、ディストリビューターや飲食関係者など168名が試食、試飲。想定来場者100名を大きく上回り、メキシコとしては珍しく行列ができるほど盛況**。
- 来場者の評価いずれも上々で、すでにジェトロの**オンライン商談システム**を経由した引き合いが来ているほか、**8月以降には本格的なオンライン商談を実施**予定。
- メキシコ市場は、人口1.3億で水産品の消費も旺盛なほか、日メキシコEPA（経済連携協定）やCPTPPなどの条約を日本と締結していることに加え、2018年末よりメキシコ側の輸入制度がさらに簡素化された。日本からの水産品の輸出が少ないこともあり、今後の輸出拡大に期待が寄せられている。

メキシコ「東北・三陸・常磐もの水産品+日本酒」試食・試飲会



牡蠣、ホヤ、ホタテ等が並んだ水産品ワークショップ
（説明会兼試食会）



日本酒・酒類の試飲会場



水産品の提供風景、および試食試飲会

- JETROは**7月18～21日にオランダの水産品ECバイヤー“Hokkai Suisan”社を福島・宮城・岩手に招へい**（昨年度に続き2度目の招へい）。
- ALPS処理水の海洋放出に関する風評対策を目的とし、アムステルダム事務所を通じバイヤーに働きかけることで招へいが実現。8月には欧州の水産品輸入規制緩和が見込まれる点においても時宜を得た取組となった。
- 同社は、**水産分野を中心に地元企業7社と商談、内6件は今後につながる話が出来た。加えて福島では地元プレスによる取材対応を実施。**

Hokkai Suisanの概要

- ・自社ECサイトを通じて欧州15か国以上、約1万の顧客に水産加工品を販売。
- ・欧州のスーパーマーケット、レストランにも販売。
- ・農林水産省「日本食普及の親善大使」に任命。



バイヤーの視察、試食の様子



- “日本の食品”輸出EXPO（於：東京ビックサイト/会期6月21日-23日）にて、海外事務所が推薦した**6カ国10社のバイヤーに通訳を手配し、ジェトロ職員が商談を同行支援**。
- 商談支援を行ったバイヤーの内、**マレーシアの大手輸入卸売業者は、宮城県企業（水産加工品）と岩手県企業（水産物）と商談を実施**。今回、冷凍水産物（冷凍ホタテ、殻牡蠣、漬け・酢メの魚、いくら）の調達に関心があり、両社ブースを訪問。
- 同バイヤーは、ハイエンド・アッパー・ミドル層をターゲットとしたマレーシア国内のレストラン、日系・地場系スーパー、ホテル、ローカル卸売業者など**100店舗以上への販路を有しており、2022年から日本産食品の輸入事業を本格化。すでに、水産物（生ホタテ、牡蠣等）、和牛などの日本産食品の取り扱い実績**がある。



宮城県企業の展示ブースで商談するマレーシアバイヤー

日本産農水産物・食品の輸出に特化した、国内唯一の専門見本市である“日本の食品”輸出EXPOにおいて、海外バイヤーとの商談支援を実施



- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、8月19日、20日に、**郡山市の21世紀記念公園 麓山の杜**で開催される「**ふくしまフードフェス 2023**」でキッチンカーの出店や公式アンバサダー**箭内夢菜さん**による**福島県産品のPRイベント**を実施する。
- また、8月19日、20日に道の駅ふくしまで、**福島県産品食材を味わっていただくバーベキューイベント**を開催する。
- さらに、8月26日、27日に、福島市の四季の里で、**キッチンカーの出店やマルシェ**を開催し、**福島県産品の美味しさをお伝えするキャンプイベント**を開催する。

ふくしまフードフェス2023 (8/19~8/20)

- 日程：8月19日（土）11:00~20:00
8月20日（日）11:00~17:00
- 場所：21世紀記念公園麓山の杜（郡山市）



▲ポスター



▲「発見！ふくしま」キッチンカー（イメージ）

夏のふくしまBBQまつり in 道の駅ふくしま (8/19~20)

- 日程：8月19日（土）~20日（日）
10:30~15:30
- 場所：道の駅ふくしま（福島市）



▲会場の様子（2022年9月）

PLAY PARK FUKUSHIMA IN 四季の里 (8/26~27)

- 日程：8月26日（土）~27日（日）
10:00~17:00
- 場所：四季の里（福島市）



▲会場の様子（2023年5月）

- 8月16日～22日の7日間、松坂屋上野店「ほっぺタウン」で「ふくしまの桃」販売フェアと隣接する「おかちまちパンダ広場」で盆踊り大会を開催する。
- また、8月3日～20日の18日間、JA全農福島と連携し、タイ・バンコクの高級百貨店やスーパー5店舗にて、福島県産「桃」の試食販売イベントを開催する。

発見！ふくしま夏祭り（8/16～22）

- 日程：8月16日（水）～22日（火）10:00～20:00
前夜祭 8月18日（金）16:00～20:30
盆踊り 8月19日（土）～20日（日）11:00～20:30
- 場所：松坂屋上野店、おかちまちパンダ広場



▲会場の様子（2022年8月）

タイ・バンコク ふくしまの桃イベント（8/19～8/20）

- 日程：8月3日（木）～20日（日）
- 開催店舗：
グルメマーケット（サイアムパラゴン、エムクオーティエ、エンポリウム）
ヴィラマーケット（ランスアン、トンロー） 全5店舗



▲会場の様子（イメージ）



▲グルメマーケット サイアムパラゴン（イメージ）

- 7月15日～17日の3日間、東京の国立代々木第一体育館で開催された「J-WAVE INSPIRE TOKYO」の屋外エリアブースでキッチンカーの出店と「発見！ふくしま」ブースを初出店した。
- 福島県産「常磐もの」のスズキを使用したフィッシュバーガーなどの**新メニュー**や**日本酒**を販売し「**福島県産品**」の**美味しさや魅力をPR**した。その結果、**約6万人が来場し、3600食を販売**した。

J-WAVE INSPIRE TOKYOへの出店 (7/15～17)



▲会場の様子



▲「発見！ふくしま」キッチンカー様子



▲常磐ものスズキの
フィッシュバーガー



▲常磐ものフィッシュ&チップス



▲福島県産日本酒



▲福島野菜の浅漬け串

理解釀成

- IAEAの包括報告書の内容をまとめたページを公開。また、Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。

IAEAの包括報告書の内容をまとめたページ

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- 1 ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- 2 トリチウムって何？
- 3 なぜALPS処理水を
処分しなければ
ならないの？
- 4 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 5 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry



トップページ > 安全対策・風評対策の取組 > IAEAがALPS処理水海洋放出の安全性を確認

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >



IAEA包括報告書
国際機関によるALPS処理水海洋放出の安全性確認

国際原子力機関IAEAから、ALPS処理水の海洋放出について、国際安全基準に合致していること等を結論付ける「包括報告書」が本年7月4日に公表されました。
本ページでは、このIAEAの包括報告書の内容について解説します。

ポイント

○IAEAは原子力分野について専門的な知識を持った権威ある国連の関連機関（安全基準を策定・適用する権限を保有）であり、専門的な立場から第三者としてレビュー（検証）を実施

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

国連の関連機関
IAEAは
何を確認したの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

国連の関連機関
IAEAは
今後も関わるの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- IAEAの包括報告書の内容をまとめた広告（全面）を、地元紙（福島民報、福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞）に掲載。

新聞への広告掲載内容（スペースの関係で上部のみ）

広告

ALPS処理水の海洋放出の安全性が 国際的な第三者機関によって確認されました。

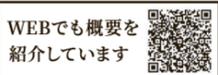


ポイント

- IAEA(国際原子力機関)は原子力分野について専門的な知識を持った国連の関連機関(安全基準を策定・適用する権限を保有)であり、専門的な立場から第三者としてレビュー(検証)を実施
- レビューの結果として、ALPS処理水の海洋放出は「国際安全基準に合致」し、「人及び環境に対する放射線影響は無視できるほどである」といった結論が盛り込まれた包括報告書を本年7月4日に公表
- IAEAは、放出中・放出後についても長年にわたってALPS処理水の海洋放出の安全性確保にコミット

包括報告書の概要

7月4日、ALPS処理水の海洋放出に関するレビューを総括する報告書がIAEAから公表されました。
包括報告書には主に以下の結論が記載されています。



人と環境への影響	<ul style="list-style-type: none"> ■ ALPS処理水の放出は、人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響になる。 ・放射線環境影響評価を国際基準に適合して実施されている。 ・ソースターム(放出前に評価するALPS処理水中の放射性物質の種類)は、十分に保守的かつ現実的。 ・国際水域は、海洋放出の影響を受けないため、越境影響は無視できるほど。
設備とプロセスの健全性	<ul style="list-style-type: none"> ■ ALPS処理水の放出を制御するシステムとプロセスは堅固である。 ■ 緊急遮断弁や放射線検出器などが重層的にシステムに組み込まれている。

グロッシーIAEA事務局長コメント

- この包括報告書は、国際社会に対し、処理水放出についての科学的知識を明確にした
- 処理水の最後の1滴が安全に放出し終わるまでIAEAは福島にとどまる
ただとどまるだけではなく、実施状況をレビューし、点検・確認をしていく



出典：IAEA

IAEAレビュースケジュール

2021年	
4月	政府は、ALPS処理水の処分に関する基本方針を決定
7月	ALPS処理水の処分に関するIAEAとの付託事項に署名
9月	IAEA担当幹部が訪日(事実上のレビュー開始)
12月	萩生田大臣(当時)とグロッシー事務局長のオンライン会議
2022年	

全体版はこちら

- 本年5月に公開した、「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。7月末時点で計250万回以上再生。（動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。）

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？



① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
トリチウムって何？



② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
なぜALPS 処理水を
処分しなければならないの？



③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



**ALPS
処理水**

動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？



⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 2023年7月4日、**西村大臣は、IAEA（国際原子力機関）のグロッシー事務局長と会談を行い、今後とも、ALPS処理水の海洋放出に関して、必要な情報共有を継続するとともに、IAEAの包括報告書の内容を踏まえて、国際社会に対して高い透明性をもって科学的根拠に基づく説明を行っていくことを確認した。**
- 会談において両者は、**海洋放出前、放出中、放出後にわたって続くIAEAによるレビューを通じて、国際的な安全基準に整合的であることを継続的に確認し、安全性の確保に万全を期すことの重要性について一致した。**
- 2023年7月5日、グロッシー事務局長は東京電力福島第一原発を訪問し、ALPS処理水に関する設備を視察した。



グロッシー事務局長と西村経済産業大臣



福島第一原発を視察するグロッシー事務局長
（IAEAウェブサイトより）

- 6月13日、ALPS処理水の取扱いに関する**中国駐在の第三国（欧米メディア等）のプレス向け説明会をテレビ会議形式で実施。**
- **外務省からALPS処理水の安全性に関するIAEAの取組や日本政府から海外へのはたらきかけ、経済産業省からALPS処理水の海洋放出に関する安全性について説明**を行った後、出席プレスとの間で質疑応答が行われた。質疑応答には原子力規制庁や水産庁、東京電力も出席。
- 説明の場では、海洋放出される水について、**中国政府が「汚染水」と間違った表現を使用していること**に関して、海洋放出するのは、**多核種除去設備（通称「ALPS」）**などを使い、トリチウム以外の放射性物質を規制基準未満まで浄化処理した水である「ALPS処理水」を、海水でトリチウム濃度を希釈することで、放射性物質の濃度を、規制基準を大幅に下回るレベル（トリチウムについては、規制基準の1/40（WHO飲料水基準の約1/7）未満）にしたものであり、**正しい情報で報道いただくことが重要である**ことを伝えた。

- 6月16日、**台湾行政院原子能委員会等の専門家視察団が訪日（3度目）し、東京電力福島第一原発等を訪問。**
- 台湾専門家視察団は、**ALPS処理水放出設備や分析機関の取組に関する理解を深めるために、関係者からの詳細な説明を受けるとともに、意見交換を行った。**
- また、視察の前日6月15日には、**ALPS処理水の海洋放出に関し関係省庁との意見交換を行った。**



▲ K 4 タンク群の視察



▲ 希釈・放出設備の視察

- 2023年7月12日、**東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水の現状に関する香港政府向け説明会を開催。**
- 日本側からALPS処理水の取扱いに関するこれまでの取組を改めて説明するとともに、7月4日に国際原子力機関（IAEA）が公表した東電福島第一原発におけるALPS処理水の安全性レビューに関する包括報告書を含めIAEAレビューの内容及び結果に関して情報提供を行い、香港側との間で質疑応答を行った。
- また、日本側から**日本産食品の安全性は確保されていることを改めて説明し、香港が現在実施している日本産食品及び農産物に対する輸入規制を早期に撤廃し、また、ALPS処理水放出に伴った更なる規制措置を行うべきではない旨強く要請**するとともに、科学的根拠に基づく対応を求めた。

■ 出席者

日本側：海部篤外務省軍縮不拡散・科学部長、岡田健一在香港総領事、湯本啓市経済産業省資源エネルギー庁
原子力災害対処審議官、道野英司農林水産省輸出・国際局審議官 等

香港側：陳国基政務長官、謝展寰環境生態局長 等

- **2023年7月13日の日EU首脳協議**において、EUは、2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故後に導入し、その後見直しを行っていた**日本産食品に対する輸入規制を撤廃すると発表**。
 (※) 規制を廃止する欧州委員会実施規則は、7月14日に発表され、8月3日に撤廃が行われる予定。
- 日本が一丸となって撤廃に向けて働きかけを行うとともに、ALPS処理水の安全性について丁寧に説明を行ってきたところ。**フォン・デア・ライエン欧州委員長は、記者会見の場で、「科学的な証拠とIAEA（国際原子力機関）の評価に基づいて今回の決定を下した」と説明**。
- ALPS処理水海洋放出を理由として、一部の国・地域で規制強化の動きが見られる中、**EUによる科学的根拠に基づく規制撤廃の判断は、風評を抑制し、被災地の復興を後押しするものであり、日本として評価**。

(証明対象・内容)

必要な証明	地 域	品 目
放射性物質 検査	福島県	一部の水産物※、柿（乾燥品）、野生のきのこ類、一部の山菜類（野生のワラビ、コシアブラ）
	宮城県	野生のきのこ類、一部の山菜類（タケノコ、野生のワラビ、コシアブラ、ゼンマイ）
	群馬県	一部の水産物※、一部の山菜類（コシアブラ）
	山形県、山梨県、静岡県	野生のきのこ類
	茨城県、長野県、新潟県	野生のきのこ類、一部の山菜類（コシアブラ）
	岩手県	野生のきのこ類
	47 都道府県	上記の県ごとの放射性物質検査の対象品目又は生産・加工地が不明な上記の品目の使用割合が 50%を超える食品及び飼料
産 地	47 都道府県	放射性物質検査証明の対象品目について、当該検査証明書が要求される県以外で生産・加工されたもの。又は放射性物質検査証明書が要求される県以外の品目の使用割合が 50%を超える食品及び飼料。

※「一部の水産物」とは、ブリ・ヒラマサ、カンパチ、マダイ、シマアジ、クロマグロ、マサバ、甲殻類、軟体動物（ホタテ含む）、海藻及び活魚を除く水産物。



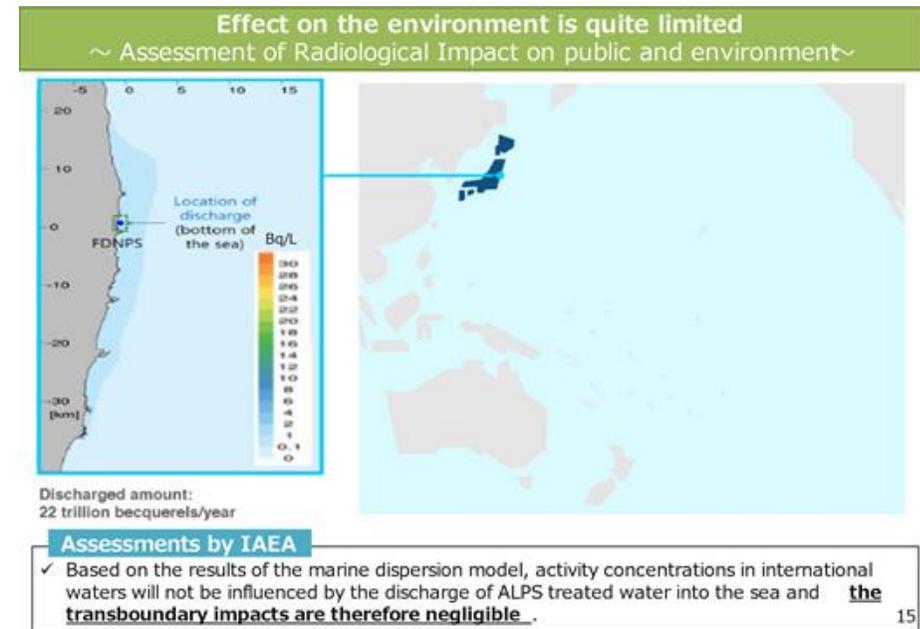
定期首脳協議後の共同記者会見

撤廃されるEUの輸入規制措置

- 日本は、IAEAのレビューを受けつつ、太平洋島嶼国・地域に対し、高い透明性をもって科学的根拠に基づく説明を引き続き誠実に行っていくこととしている。
- それに基づき、日本政府関係者が、7月14日から17日にかけて、マーシャル諸島共和国を訪問。全国地方政府市長会、ウィルバー・ハイネ外務貿易大臣代行、国会外務・貿易常任委員会委員長、環境保護局、マーシャル海洋資源局、国家原子力委員会、官房長官室といった政府関係者等との意見交換を行い、幅広くALPS処理水の海洋放出の安全性について説明を行った。



マーシャル諸島の政府関係者との意見交換の様子



ALPS処理水の海洋放出による太平洋の環境への影響は無視しうる程度と説明

- 里見経済産業大臣政務官は、7月9日から18日までの日程で、チリ共和国、コロンビア共和国及びブラジル連邦共和国に出張した。
- チリ共和国では、里見経済産業大臣政務官は、パルドウ・エネルギー大臣及びサンウエサ・貿易大臣と意見交換を行い、**IAEAによるALPS処理水の海洋放出についての科学的根拠に基づく安全性を結論づけた報告書の公表について説明**を行った。
- コロンビア共和国では、里見経済産業大臣政務官は、キンテロ・商工観光副大臣（通商担当）及びカロ・同副大臣（産業担当）と意見交換を行い、**IAEAによるALPS処理水の海洋放出についての科学的根拠に基づく安全性を結論づけた報告書の公表について説明**を行った。



里見経済産業大臣政務官と
パルドウ・エネルギー大臣（チリ）との意見交換



里見経済産業大臣政務官と
サンウエサ貿易大臣（チリ）との意見交換



里見経済産業大臣政務官と
キンテロ商工観光副大臣
及びカロ同副大臣（コロンビア）との意見交換

ALPS処理水の現状に関する 在京外交団等向けテレビ会議説明会の実施

販促・
魅力発信

理解醸成

安全確保

27

- 2023年7月19日、**東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向け説明会をテレビ会議形式で実施**、46の国及び地域から56名が参加。同説明会は、東電福島第一原発事故以降122回目となる。
- 冒頭、IAEAグロッシェ事務局長が7月4日から7日まで訪日されたことを踏まえ、外務省から同事務局長訪日の概要、4日に同事務局長から岸田総理に手交された包括報告書について説明を行った。続いて、資源エネルギー庁から、同報告書の詳細を、東京電力から、5日にIAEAと同社が締結したALPS処理後の水中で飼育中の魚に係るPractical Arrangements及び東電福島第一原発域内に立ち上げたIAEAのオフィスについて説明を行った後、出席者との間で質疑応答が行われた。
- また、2023年7月26日、**香港のプレス向けにもブリーフィングを行い、当地メディアを通じて、香港社会に情報発信することで、ALPS処理水の海洋放出に対する香港市民の理解の醸成をはかった。**

参加国及び地域

アイスランド、アルゼンチン、アンゴラ、イラン、インドネシア、ウルグアイ、英国、エクアドル、オーストラリア、ガーナ、カタール、韓国、ギニア、キューバ、ギリシャ、コソボ共和国、シリア、シンガポール、スイス、スリランカ、セルビア、タイ、チェコ、中国、ドイツ、ニカラグア、ニュージーランド、ノルウェー、パラグアイ、バングラデシュ、フィジー、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ブルキナファソ、米国、ベトナム、香港、マダガスカル、マラウイ、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、ラオス、ルクセンブルク

東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向けテレビ会議説明会を開催しました

2023年7月19日

▶ エネルギー・環境

7月19日、東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向け説明会をテレビ会議形式で実施し、46の国及び地域から56名が参加しました。同説明会は、東電福島第一原発事故以降122回目となります。

1. 冒頭、IAEAグロッシェ事務局長が7月4日から7日まで訪日されたことを踏まえ、外務省から同事務局長訪日の概要、4日に同事務局長から岸田総理に手交された包括報告書について説明を行いました。続いて、資源エネルギー庁から、同報告書の詳細を、東京電力から、5日にIAEAと同社が締結したALPS処理後の水中で飼育中の魚に係るPractical Arrangements及び東電福島第一原発域内に立ち上げたIAEAのオフィスについて説明を行った後、出席者との間で質疑応答が行われました。
2. 日本としては、今後関係省庁一併となって、東電福島第一原発の状況についての情報を国際社会に対して透明性をもって丁寧に説明していく考えです。

参考1 参加国及び地域

アイスランド、アルゼンチン、アンゴラ、イラン、インドネシア、ウルグアイ、英国、エクアドル、オーストラリア、ガーナ、カタール、韓国、ギニア、キューバ、ギリシャ、コソボ共和国、シリア、シンガポール、スイス、スリランカ、セルビア、タイ、チェコ、中国、ドイツ、ニカラグア、ニュージーランド、ノルウェー、パラグアイ、バングラデシュ、フィジー、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ブルキナファソ、米国、ベトナム、香港、マダガスカル、マラウイ、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、ラオス、ルクセンブルク

▲ 経済産業省プレスリリース

外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

報道発表

東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向けテレビ会議説明会の開催

令和5年7月19日
英語版 (English)

東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向けテレビ会議説明会の開催

7月19日、東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向け説明会をテレビ会議形式で実施し、46の国・地域から56名が参加しました。同説明会は、東電福島第一原発事故以降122回目となります。

1. 冒頭、IAEAグロッシェ事務局長が7月4日から7日まで訪日されたことを踏まえ、外務省から同事務局長訪日の概要、4日に同事務局長から岸田総理に手交された包括報告書について説明を行いました。続いて、資源エネルギー庁から、同報告書の詳細を、東京電力から、5日にIAEAと同社が締結したALPS処理後の水中で飼育中の魚に係るPractical Arrangements及び東電福島第一原発域内に立ち上げたIAEAのオフィスについて説明を行った後、出席者との間で質疑応答が行われました。
2. 我が国としては、今後関係省庁一併となって、東電福島第一原発の状況についての情報を国際社会に対して透明性をもって丁寧に説明していく考えです。

【参考1】出席国・地域

アイスランド、アルゼンチン、アンゴラ、イラン、インドネシア、ウルグアイ、英国、エクアドル、オーストラリア、ガーナ、カタール、韓国、ギニア、キューバ、ギリシャ、コソボ共和国、シリア、シンガポール、スイス、スリランカ、セルビア、タイ、チェコ、中国、ドイツ、ニカラグア、ニュージーランド、ノルウェー、パラグアイ、バングラデシュ、フィジー、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ブルキナファソ、米国、ベトナム、香港、マダガスカル、マラウイ、マレーシア、ミャンマー、メキシコ、ラオス、ルクセンブルク

▲ 外務省プレスリリース

- 2023年7月21日、22日、G20エネルギー移行大臣会合がインドのゴアにて開催され、経済産業省から西村経済産業大臣が参加、外務省から高木外務政務官も参加。
- 本会合において、福島第一原子力発電所の廃炉の取組を科学的根拠に基づき進めている旨説明。特に、**ALPS処理水の海洋放出**について、**今月公表されたIAEA包括報告書**において、**国際基準に合致し、人や環境に対し、無視できるほどの放射線影響との結論が示されたことを紹介し、ALPS処理水の対応が科学的根拠と国際基準に基づき進められていることを国際社会に説明してきた旨発言**した。その上で、透明性をもって引き続き対応していく旨表明した。



G20エネルギー移行大臣会合に出席される西村経済産業大臣



- 2023年7月25日、東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する韓国政府向け説明会（於：東京）を開催。
- **日本政府からは、先般の日韓首脳会談等で説明した日本の立場に基づき、海洋放出の安全性確保に向けた取り組みを引き続き進めていくことを説明。**韓国側からは、I A E A 包括報告書の内容を尊重するというこれまでの立場を踏まえ、7月7日に公表した韓国政府としての検討結果の内容等、韓国政府の取り組みにつき説明があった。
- 日本側からは、**引き続き、科学的根拠に基づき、韓国との意思疎通を継続していきたい旨**を述べ、**双方は早期に再度説明会を実施することで一致。**今後も関係省庁等が一体となって、ALPS処理水の海洋放出の安全性や東電福島第一原発の状況について、国際社会に対して透明性をもって丁寧に説明していくこととした。

■ 出席者

日本側：海部篤外務省軍縮不拡散・科学部長、
湯本啓市経済産業省資源エネルギー庁原子力災害対処審議官
原子力規制庁、東京電力 等

韓国側：ユン・ヒョンス外交部気候環境科学外交局長 等

- 2023年6月28日、米国下院議員団一行（ジェフ・ダンカン議員、ダイアナ・デゲット議員、ティム・ウォルバーグ議員、デビー・レスコ議員、ランディ・ウェバー議員、スコット・ピーターズ議員）が東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）を視察。
- 視察した議員団のうち、ジェフ・ダンカン議員及びダイアナ・デゲット議員から、**IAEAの報告書によって確認された日本の科学的根拠に基づくアプローチと、国際的に認められた原子力安全基準へのコミットメントの歓迎と、福島処理水放出に関する判断は、事実に基づくものであるべきとの声明**の発表がありました。

声明全文

Reps. Duncan, DeGette Release Statement on Japan's Safety Efforts After Trip to Fukushima

On June 28, 2023, a bipartisan congressional delegation of Energy and Commerce Committee Members led by Rep. Jeff Duncan (R-SC), Chairman of the Subcommittee on Energy, Climate, and Grid Security, visited the Fukushima Daiichi nuclear power plant and received a full briefing on Japan's plans to safely release water from storage.

Upon returning to the United States, Energy, Climate, and Grid Security Subcommittee Chairman Jeff Duncan and Ranking Member Diana DeGette released the following statement regarding a report issued this week by the International Atomic Energy Agency confirming the safety of Japan's plans:

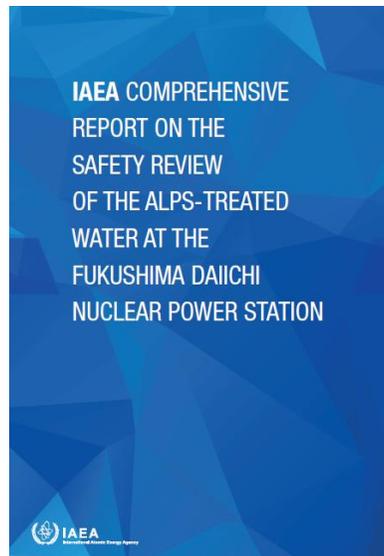
"Last week, we learned about Japan's ongoing efforts to clean up the Fukushima site during a briefing and tour of the facility. Judgments regarding the release of Fukushima wastewater should be based on facts. **We welcome Japan's science-based approach and commitment to globally accepted nuclear safety standards which has just been confirmed by the IAEA's report.**"

(仮訳)

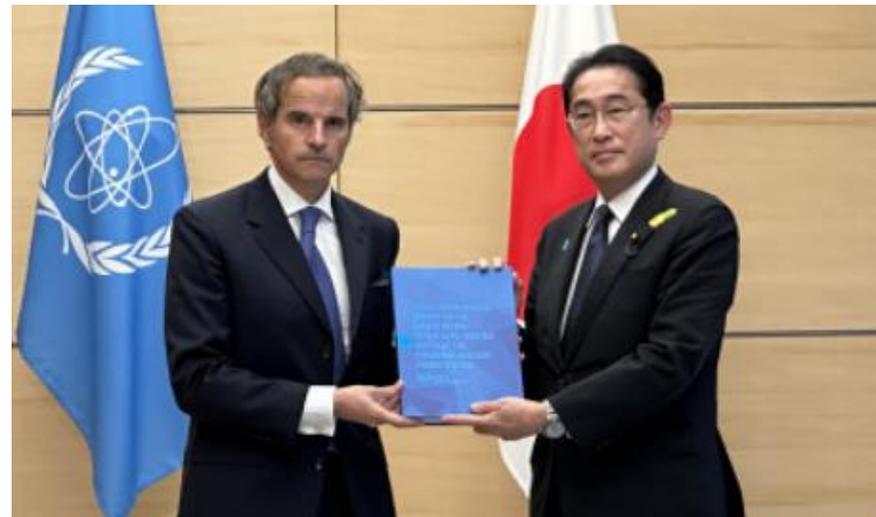
私たちは先週、福島第一原発を視察し、（廃炉に向けた）日本の継続的な取組を知った。福島処理水の放出に関する判断は事実に基づくべきである。私たちは、IAEAの報告書で確認されたとおりの、日本の科学的根拠に基づいたアプローチと国際的に受け入れられた原子力安全基準へのコミットメントを歓迎する。

安全確保

- 2021年4月に日本政府が発表した基本方針を受け、国際原子力機関（IAEA）との合意に基づき、ALPS処理水の安全性レビューが2年にわたって行われ、これまでに6冊の進捗報告書が公表。
- 2023年7月4日、これらのレビューを総括し、IAEAとしての結論を記した包括報告書が、グロッシーIAEA事務局長から岸田総理に手交され、IAEAから公表。
- IAEA包括報告書の要旨（Executive Summary）において、以下の結論が述べられている。
 - IAEAの包括的評価に基づき、**IAEAは、ALPS処理水の海洋放出に対する取組及び、東京電力、原子力規制委員会及び日本政府による関連の活動は、関連する国際安全基準に合致している**と結論付けた。
 - IAEAは、包括的評価に基づき、現在**東京電力により計画されているALPS処理水の放出は、人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響となる**と結論付けた。



IAEA包括報告書



グロッシー事務局長から岸田総理へ報告書の手交

- 昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞（福島民報はチラシの折込））に広告を掲載。**
- 本年7月も2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：第24回、右下：第25回）

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.24

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

ALPS処理水の海洋放出にあたっての安全性確保「設備・運用の全体像」

※Vol.12と同様の内容です。

放出する水の安全性を確保します
当社は、政府の基本方針を踏まえて、ALPS処理水希釈放出設備等の設計・運用等の具体的な検討を進め、原子力規制委員会の実施計画変更認可を経て、2022年8月から、安全を最優先に設備等の工事を進めてきました。

2023年6月に設備の設置が完了し、原子力規制委員会の使用前検査を受け、同年7月に合格したことを示す終了証を受領しました。

また、国際原子力機関（IAEA）による安全性確認を受けてきており、2023年7月4日にIAEAから公表された包括報告書では、ALPS処理水の海洋放出は国際安全基準に合致していると結論付けられました。

右の取組みで、放出する水の安全を確保します。

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶【処理水ポータルサイト】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>

ALPS処理水の科学的検証のほどをお伝えします
▶【ALPS処理水について、お伝えしたいこと】
https://www.tepco.co.jp/tepcv_guide/

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶【皆さまのご意見をお聞かせください】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.25

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

国際原子力機関（IAEA）による安全性の確認④

ALPS処理水の安全性レビューに関する包括報告書が公表されました

福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出について、これまでIAEAによる一連の検証活動（レビュー）*が行われてきましたが、7月4日、IAEAは、これらの安全性レビューを総括する報告書を公表しました。

報告書には、当社のALPS処理水の海洋放出計画について、「国際安全基準に合致し」、「人及び環境に対する放射線影響は無視できるほどである」といった結論が記されています。

*「安全性の検証」「規制活動とプロセス」「施設サンプリング、データ解析及び分析」の主要3つの項目を、IAEAの国際安全基準に準拠して検証

包括報告書の概要

- ▶ALPS処理水の海洋放出に対する取組及び、東京電力、原子力規制委員会及び日本政府による関連の活動は、国際安全基準に合致している
- ▶東京電力により計画されているALPS処理水の放出は、人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響になる

IAEA (International Atomic Energy Agency)

- ・国際連合の後援のもと、1957年に自治機関として設立、原子力に関する国を越えた協力を進めている国際機関
- ・査察官を世界各々の現場に派遣して原子力が平和利用されているかの検証や原子力の安全に関する国際的な基準の設定、原子力をこれから導入しようとしている国などに専門知識を提供するなどの取組みを実施している

ALPS処理水に関する「特別ページ」
IAEA 公式日本語ページ
QRコード
クローン事務局

皆さまからの声におこたえします

Q 包括報告書を受けて東京電力はどのように対応していきますか？

A IAEAは、放出前のレビューだけでなく、放出中・放出後についても長期にわたってALPS処理水の海洋放出の安全性確保に関与いただきます。当社は引き続き、IAEAの国際的な安全基準に照らしたレビューを継続的に受けることで、ALPS処理水の海洋放出に関する透明性・客観性・信頼性を高め、その内容をわかりやすい形で国内外へ発信してまいります。

ALPS処理水のサンプリングに立会
(2022年2月)

測定・検出用設備を稼働検証
(2022年11月)